

2008年度 早稲田大学 商学部

日本史 解答例

1 古代の雑題 <難>

問A 5 問B 2 問C 1 問D 3 問E 2
問F 4 問G 5 問H 5 問I 1 問J 5

「適当なものがなければ6をマークせよ」という問題形式のせいで、消去法が使えず難度が高くなっている。また、問Hは下線部の時代に限定すると正解は5となるが、非常にまぎらわしい出題となっている。

2 貞永式目・半濟令・応仁の乱 <易>

問A 2 問B 3 問C 4 問D 3 問E 2
問F 5 問G 5 問H 5 問I 3 問J 4

頻出史料からの出題だったので、下線問題も空欄問題も難なく解けただろう。

3 佐倉惣五郎 <やや易>

問A 5 問B 4 問C 2 問D 1・5 問E 3
問F 4 問G 2・5 問H 3 問I 1 問J 3

未見史料の空欄問題で緊張しただろうが、よく読解して選択肢を見比べれば正解できるものばかりである。また、問Hのような正誤問題に出くわすと、早大入試の日本史が用語の暗記だけでは到底太刀打ちできないことが実感できるだろう。

4 条約改正 <易>

問A 3・5 問B 1・3 問C 3・5 問D 2・3 問E 3・4
問F 2・4 問G 3・5 問H 1・3 問I 1・2 問J 2・3

各誤文のレベルはそれほど難しくなく、丁寧にチェックしていけばどれも正誤判別できるものばかりであった。この2つ選ばせる問題は、完答して初めて加点されると思われる。

5 日独関係・満州事変と日中戦争 <標準>

問A 2・4 問B 2・5 問C 1・5 問D 2・3 問E 2・4

問F 犬養毅 問G 重要産業統制 問H 北京

問I 臨時軍事費特別 問J 国家総動員

問Iは記述問題であるため大変難しかったが、三省堂の教科書には太字で掲載されている用語である。山川出版の『詳説日本史』をみっちり学習するのがベストだと教え込まれている受験生は、この事実をどう思うだろうか。

6 戦後の文化・財閥 <標準>

問A 古橋広之進 問B 羅生門 問C 三種の神器 問D 新潟水俣

問E 利根川進 問F 金融・鉱山・貿易 問G 日産

問H a 譲渡させ b 公売する c 民主化

問Aはヒントが少ない上に記述問題だったため難しかっただろう。問Dは「第二水俣病」でも正解と思われる。また問Fも上記以外にいくつかの別解が想定される。

講評

昨年度は異常な問題量だったが、さすがにそれが連年で出題されることはなかった。正誤問題も非常に解きやすいものばかりで、しっかり対策をとっていた受験生には易しく感じられただろう。また、今年は商学部特有の短い論述問題がなくなったかわりに、大問6の問Hで用語を選ばせながら文章を完成させる問題が出題された。政治経済学部もそうだが、やはり論述問題の採点が面倒なのだろうと推測される。